



GFMS GOLD SURVEY 2018

日本語ダイジェスト版

Gold Survey 2018の表紙の写真は下記の各社から提供されたものです。



田中貴金属グループ

田中貴金属グループは日本の大手貴金属精錬・製造業者です。同グループは、半導体から通信機器に至る様々な用途で 사용되는高度な技術仕様を要する工業用製品の製造で国際的に広く認められ、またゴールドバーの製造および販売、コインの販売を行っています。田中貴金属のゴールドバーはロンドン金市場の「グッドデリバリー・バー」に認定されています。

valcambi
suisse

大手貴金属精錬会社であるValcambi社は、スイスのパレルナに33ヘクタールの敷地を擁し、世界最大の規模を誇る最も効率的な総合貴金属プラントを運営しています。

同社は鑄造インゴットの製造に関しても世界最大のメーカーの1つに数えられています。同社では0.5グラムから1,000グラムまでの金、銀、プラチナ、パラジウムの鑄造バーを製造しており、様々な形態および新しいデザインの開発を絶えず入念に進め、世界中の様々な国の投資家の需要に対応しています。また、お客様の要望に応じて、地金の前面および裏面、証書、パッケージ商品のオーダーメイドも承っています。

同社の鑄造所および鑄造プラントで生産されたすべての製品は同社の試験所による認定、同社の技師による入念な検査を経て、個別に包装され、照合されたうえで出荷されます。ホールマーク刻印はスイスの職人技術の質を保証するのみならず、世界中で最も探し求められ、貴金属鑑定家にも投資家にも最も希求されているこのバーの純度も保証しています。

Valcambi社製のバーは際立った価格で販売されているばかりか、独自の職人技術、保証付きの純度、透明性、信頼性と同義でもあります。



THOMSON REUTERS™

GFMS GOLD SURVEY 2018

編集・著者

Rhona O'Connell 貴金属リサーチ&予測責任者

Cameron Alexander マネージャー

Ross Strachan マネージャー

Bruce Alway マネージャー

Sudheesh Nambiath 主席アナリスト

Johann Wiebe 主席アナリスト

Samson Li シニア・アナリスト

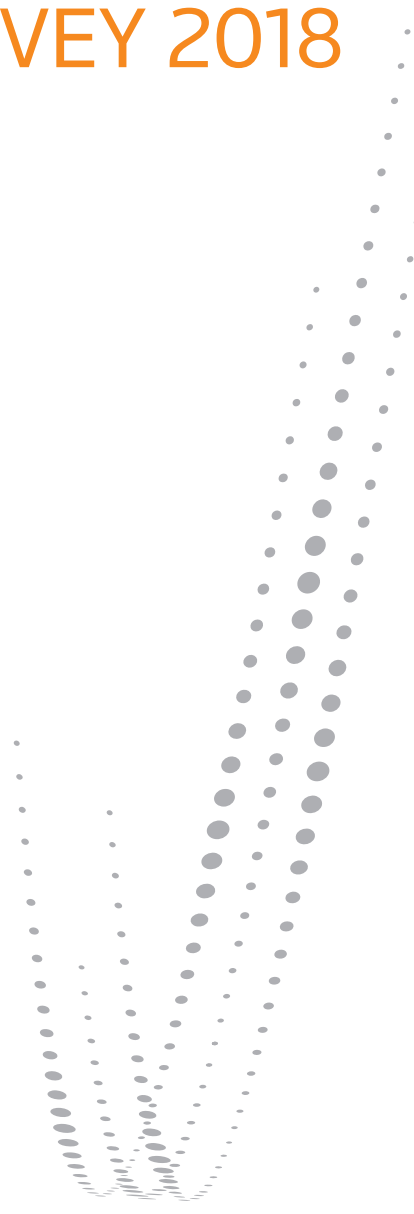
Natalie Scott-Gray シニア・アナリスト

Dante Aranda シニア・アナリスト

Zen Chan アナリスト

その他の寄稿者

IFR Production, Thomson Reuters



トムソン・ロイター社は、今年度のGold Surveyと
下記の各社からご協力とご支援をいただいた

PAMP
Produits Artistiques Metaux Precieux

www.pamp.com

 **ITALPREZIOSI**[®]
Precious Metals Refining and Trading

Italpreziosi SPA



YLG Bullion

 **THE PERTH MINT**
AUSTRALIA

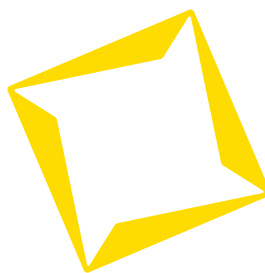
The Perth Mint Australia

四半期ごとのUpdateを刊行するにあたり、
ことに心より感謝申し上げます。



TANAKA PRECIOUS METALS

valcambi
suisse



www.valcambi.com



LME

目次

1. 要約と価格見通し	8
• 2017年の供給	9
• 2017年の需要	10
• 価格と市場の見通し	11
2. 投資	13
• 概要	13
• 商品取引所での活動	14
• 現物金地金投資	16
• 公的コイン	17
• OTC(相対)取引と比較して人気が高まっているCOMEXでの金取引	18
3. 付録	20
• 2017年の金価格	21
• 世界の金の鉱山生産量 – トン	22
• 世界の金加工量(中古金スクラップの使用を含む) – トン	24
• 宝飾品消費量(中古金スクラップを含む) – トン	26
囲み特集	
• 上場投資信託(ETF)	15

© THOMSON REUTERS 2018

本書に提供されたすべての内容はThomson Reutersおよび/またはその関連会社によって所有されており(以下、「Thomson Reutersのコンテンツ」という)、米国および国際的な著作権法によって保護されている。Thomson ReutersはThomson Reutersのコンテンツに付随するすべての所有権を保持する。Thomson Reutersの文書による明確な承諾なしに、Thomson Reutersのコンテンツを営利目的で複製、複写、改ざん、伝送、配布すること、またはその他の方法で利用することを禁じる。不許複製・禁無断転載。

商標

“Thomson Reuters”およびThomson ReutersのロゴはThomson Reutersおよびその関連会社の商標である。本書に掲載されている第三者の商標、サービスマーク、ロゴは関連する第三者またはその関連会社によって所有されており、かかる所有者の文書による明確な承諾なしにこれらの商標、名称またはロゴを使用することはできない。

保証および依拠に関する免責

本書はThomson Reutersにより、「利用可能な現状有姿」で提供されている。Thomson ReutersはThomson Reutersのコンテンツの正確さまたは完全性について、明示または黙示を問わず、いかなる種類の表明または保証も行わない。Thomson Reutersは情報提供のみを目的として情報を収集、提供しており、金融またはその他の専門的なアドバイスを提供するものではない。Thomson Reutersは、商品の売買またはリスク管理に関する決定など、Thomson Reutersのコンテンツに依拠して下された決定に起因して発生した損失または損害に対していかなる責任も負うものではない。

ISSN: 2055-1797 (Print)

ISSN: 2055-1800 (Online)

2018年の発行予定

- | | |
|--|---|
| • WORLD SILVER SURVEY 2018 | 2018年5月12日(ニューヨーク)
2018年5月13日(メキシコシティ) |
| • GFMS BASE METALS REVIEW AND OUTLOOK | 2018年5月17日 |
| • GFMS PLATINUM GROUP METALS SURVEY 2018 | 2018年6月6日 |
| • GFMS GOLD SURVEY 2018: H1 UPDATE AND OUTLOOK | 2018年7月26日 |
| • GFMS BASE METALS REVIEW AND OUTLOOK | 2018年10月8日 |
| • GFMS GOLD SURVEY 2018: Q3 UPDATE AND OUTLOOK | 2018年10月25日 |

Gold Survey 2018 日本語 ダイジェスト版 発行にあたって

平成 30 年 6 月

田中貴金属工業株式会社
代表取締役社長 田苗 明

1967 年にコンソリディテッド・ゴールド・フィールズ社が初めて金の調査報告書 Gold 1967 を発行して以来、当報告書は毎年定期的に刊行されて参りました。

同社はこの作成のために専門家を世界各国に派遣し、現地の金の関係者に直接会って取材するという徹底した調査方法をとって正確かつ詳細を期すことにより、金に関する最も信頼でき、権威ある資料の一つとして世界の産業、金融界のみならず一般の方々にも広く利用されております。

1990 年版より当調査報告書の刊行はゴールド・フィールズ・ミネラル・サービシズ社の手に移りましたが、調査方法は従来と変わりなく、内容の一層の充実を期して続けられております。

この度、刊行されたトムソン・ロイター GFMS 社『Gold Survey 2018』に加えまして、弊社より『Gold Survey 2018』日本語ダイジェスト版を発行することとなりました。是非、マーケティングデータの調査・分析にお役立て頂きますようお願い申し上げます。

最後になりますが、本書の原書を発行されたトムソン・ロイター GFMS 社とこの仕事に携われた関係の方々のご尽力に感謝の意を表します。

使用されている単位:

トロイオンス(oz)	=31.1035グラム
トン	=1,000キログラム、32,151トロイオンス
カラット	=純金を24カラットとした金の純度

- 米ドル価格およびその換算数値は、別途記載がない限り、午後のLBMA金価格を示している。
- 金の需要に関する統計数値は、別途記載がない限り、すべて純金含有量に基づいて示されている。
- 表全体について、データがそれぞれ四捨五入されているため合計と一致しないことがある。

用語:

「-」	: 入手不能もしくは該当なし。
「0.0」	: ゼロもしくは0.05未満
「ドル」	: 別途記載がない限り米ドルを示す。
「確認可能な投資」	: 現物地金投資とすべてのコイン加工量の合計に上場投資信託(ETF)の現物保有量の純増減を加えたもの。
「宝飾品消費量」	: 新規に小売販売されたすべての宝飾品(つまり、交換品や中古品は含まない)の純金含有量。宝飾品加工量に宝飾品の正味流入量(すなわち、輸入量から輸出量を差し引いたもの)を加えて算出され、小売在庫の変動に関する調整も図られている。
「現物の過不足」	: 暦年中に市場に供給された新規および中古の金供給量と測定可能な現物の金需要の差異。不透明な相対(OTC)金投資および商業銀行による取引を除く。
「ネットバランス」	: 金の現物の過不足に可視性の高いETFと取引所在庫の増減を加えたもの。
「小口投資」	: 地金およびコインの形態による確認可能な正味現物金投資。地金は「ロンドン市場受渡適合品」であるものもあれば、この基準に適合していないものもあるが、地金生産国において一般的に取引されている形態とする。コインは額面の有無にかかわらず、公的および非公式のあらゆるコインおよびメダルが含まれる。

第1章 要約と価格見通し

「The more things change, the more they stay the same. (物事が変化するほどに、その本質は変わらないものだ)」。

これは19世紀のフランスの格言を英訳したものだ、昨年の金市場をうまく説明している。21世紀になってから、ドル建ての年間平均価格は、上下5%以上、2桁の割合で変動していたが、2017年にはわずか0.5%の上昇にとどまり、それまでとは対照的な動きとなった。とは言え、さらに時代を遡ると、1995年には金相場がほとんど変動しなかったことが思い起こされる。我々はGold Survey 1996年版で、需給が大きく変動したにもかかわらず、金価格のボラティリティが1968年以来の低水準にとどまった1995年の金市場について矛盾しているように見えると論評した。それから20年以上を経て、我々は当時と同じ状況にある。本稿で詳述するとおり、個々の需給要因は劇的に変動した。実際、2017年の年明けを振り返ると、トランプ氏が米大統領に就任し、欧州各国の選挙が迫っていた状況から、誰もが市場のボラティリティは高くなると予想していた。しかし、少なくともVIX(恐怖指数)で測られる市場のボラティリティは、この指数の誕生以来の最低水準まで低下した。これは究極の安全資産にとって間違いなく強い逆風であり、金市場にとっても同様である。

それでも、金価格はわずかに上昇し、我々が昨年のGold Surveyで予想した1,259ドルにはほぼ届く水準に達し、ネットバランスも2016年とほぼ同じ規模となった。金相場が比較的安定していた背景には、年明けからの数ヶ月を経た後にETF需要が著しく減少したものの、これが現物需要のかなりの増加によって補われたことがあった。2017年には投資家心理の好転とそれに伴うリスクヘッジを反映してETFが大量に買われた時期に金相場が最大の上昇となったことから、2016年の場合と同様にETFの動向が重要であったことがわかる。それ以降、ETFの動きは鈍化した。これを補うように宝飾需要がかなりの低水準からではあるものの回復し、同時にトルコが大量かつ定期的な金購入国として浮上したことによって公的部門の購入量が3分の1以上も増加した。昨年末には米国が待望の利上げを実施し、これを受けて金相場は急騰。この地合いを引き継ぎ、2018年の金相場は堅調に始まった。この上昇相場は1月終盤に1,360ドル弱の壁に達し、以降は繰り返してこの水準に達している。金相場がこの水準を維持できるか否かについての考察は11ページを参照されたい。

世界の金の供給と需要(トン)

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
供給										
鉱山生産量	2,467	2,651	2,771	2,868	2,882	3,076	3,180	3,222	3,251	3,247
中古金スクラップ	1,388	1,765	1,743	1,698	1,700	1,303	1,159	1,180	1,306	1,210
生産者ヘッジによる正味供給量	-357	-234	-106	18	-40	-39	108	21	32	-41
供給合計量	3,497	4,182	4,407	4,584	4,543	4,340	4,446	4,422	4,590	4,415
需要										
宝飾品	2,355	1,866	2,083	2,099	2,066	2,726	2,559	2,464	1,953	2,214
工業用加工量	479	426	480	470	432	428	411	376	366	380
エレクトロニクス	334	295	346	342	310	306	297	267	264	277
歯科・医療	56	53	48	43	39	36	34	32	30	29
その他の工業用	89	79	86	85	84	85	80	76	71	73
公的部門の正味需要	-235	-34	77	457	544	409	466	443	269	366
小口投資	939	866	1,263	1,617	1,407	1,871	1,162	1,160	1,043	1,028
金地金	667	562	946	1,248	1,057	1,444	886	875	786	780
コイン	272	304	317	369	350	426	276	284	257	248
現物需要	3,538	3,125	3,903	4,643	4,449	5,434	4,598	4,442	3,630	3,988
現物の過不足	-40	1,057	504	-59	94	-1,094	-151	-20	959	427
ETFの在庫構築	321	623	384	189	279	-879	-155	-117	539	177
取引所の在庫構築	34	39	54	-6	-10	-98	1	-48	86	0
ネットバランス	-396	395	67	-241	-176	-117	3	146	334	250
金価格(LBMA 午後、米ドル/oz)	871.96	972.35	1,224.52	1,571.69	1,668.98	1,411.23	1,266.40	1,160.06	1,250.80	1,257.15

出所:GFMS, Thomson Reuters

各項目を四捨五入しているため、合計と一致しない場合がある。正味生産者ヘッジは鉱山会社のゴールドローン、フォワード・ポジション、オプション・ポジションが現物市場に与える影響の推移を示している。

2017年の供給

- 2017年の鉱山生産量はほぼ変わらず、前年比5トン減の計3,247トンであった。
- 2017年のトータルキャッシュコスト(TCCs)は4%増の672ドル/ozとなり、オール・イン・サステイニング・コスト(AISC)は5%増の878ドル/ozとなった。
- 相場の変動が乏しかったためにリサイクルも限定されたことから、世界全体の中古金スクラップ供給量は2017年に7%減の1,210トンとなり、2015年の水準をも下回った。

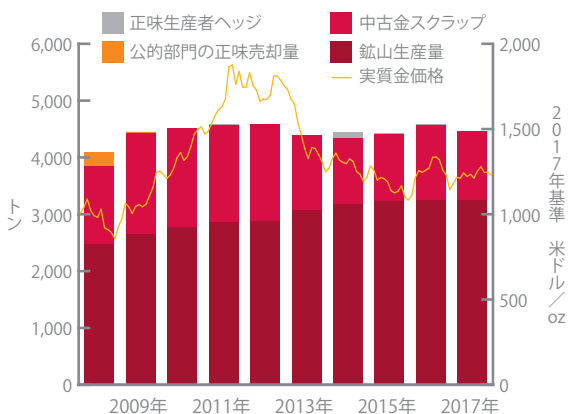
中国における環境問題への懸念とインドネシアでの違法採掘に対する厳重な取り締まりによって、世界の**鉱山生産量**は2017年にわずかに減少した。中国では、採掘・精錬業全体の金産量が12トン減となると同時に、製錬所の委託生産量も前年比で14トン減少したと推定される。また、インドネシアの公式な生産量は、バツ・ヒジャウ鉱山のオペレーションが新経営体制下で初の通年稼働となった2017年にフェーズ6の最終段階を迎えたことから、生産量が5トン減少したと推定され、こうした状況からアジアの生産量は49トンも減少。南米もチリ、コロンビア、ペルーの減産によって全体で15トンの減産となった。それ以外では、ロシアがオリンピアード鉱山の本格稼働によって最大の増産となり、カナダと米国はそれぞれ品位の向上と新規プロジェクトによって計19トンの増産を記録した。

2017年には、トータルキャッシュコスト(TCCs)が4%増の672ドル/oz、オールインサステイニングコスト(AISC)が5%増の878ドル/ozとなって、採鉱コストが増加した。生産コストが増加したのは主に南アフリカで、高含有の鉱石が増加したにもかかわらず、18%増の1,010ドル/ozに達した。同国では、業績が上向いた生産者もあったが、その数はわずかにとどまり、大半の生産者は燃料コストの上昇や品位の低下ならびに生産国通貨全般にわたってのまちまちの動きといった逆風に直面することになった。

デルタ調整後の**生産者ヘッジポジションの残高**は世界全体で前年比16%減少の211トンとなった。ヘッジポジション残高が最大のプラスは計25トンのバリアオプションを行使し、生産者ヘッジを解消。さらには、アフリカの生産者の間でもヘッジ解消があり、アフリカほどではないもののオーストラリアの生産者でもヘッジ解消が進んだ。しかし、ロシア第二の生産者が設備投資計画を進めたことからこれらの動きを部分的に相殺している。

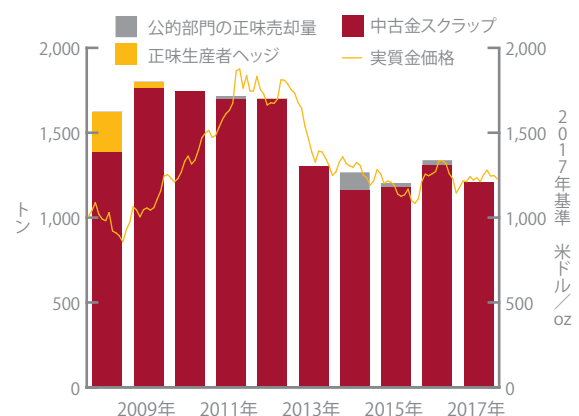
世界の**中古金スクラップ供給量**は2017年に7%減の1,210トンまで落ち込み、2014年以来の減少に転じた。ドル建て金価格の安定と自国通貨の上昇によって自国通貨建て金価格が抑えられたためにスクラップ在庫が放出されず、スクラップ供給量は広範囲にわたって減少した。中古金スクラップ供給量全体の55%強を占めるアジアでは、インドの急減によって、2017年の供給量が12%減少した。この地域の唯一の例外が日本で、個人輸入の増加によって中古金スクラップの供給量も増加し、2017年には前年比で13%増加した。それ以外の地域では、ユーロ建て金価格が例年になく安定していたことから、欧州の中古金スクラップ供給量が4%減少した。例外は英国で、英国ポンド建ての年間平均金価格が5年ぶりの高値となったため、中古金スクラップ供給量も5年ぶりの最高水準に達した。北米では、経済が引き続き好調だったため投げ売りが減少しており、そのためスクラップ量も4%減少して12年ぶりの最低水準となった。

世界の金の供給



出所: GFMS, Thomson Reuters

地上在庫からの供給量



出所: GFMS, Thomson Reuters

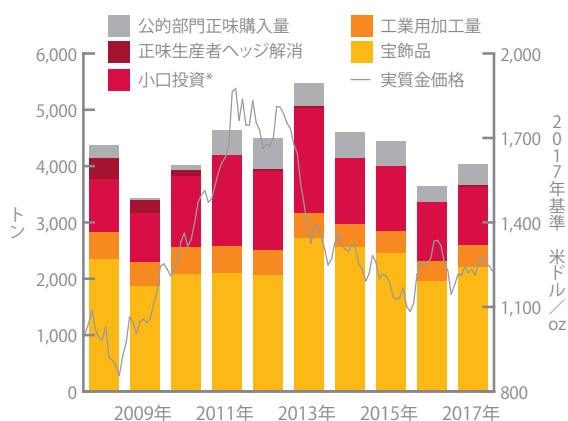
2017年の需要

- 2017年の現物需要は4年ぶりの増加に転じ、前年比で10%もの急増となった。主因は宝飾加工需要の回復にあり、工業用需要の増加も原動力となった。
- 宝飾品加工量は主にインドの需要回復に後押しされて、前年比13%増の2,214トンに達した。
- 2017年の工業用需要は、好調さを増す世界経済を原動力として2010年以来の増加に転じ、4%増の380トンとなった。際立っていたのはエレクトロニクス部門で、ボンディングワイヤでの金の使用量増加もあり、需要が5%増加して3年ぶりの高水準に達した。
- 確認可能な投資需要は2017年に24%減の計1,205トンまで落ち込んだ。背景には、ETF(上場投資信託)需要の増加がコイン・地金需要の減少によって相殺されたことがあった。
- 公的部門の正味購入量は36%増の366トンとなった。原動力となったのはロシアとトルコで、ロシアは3年連続で200トンを上回る金を購入し、トルコは定期的な金の購入を開始した。

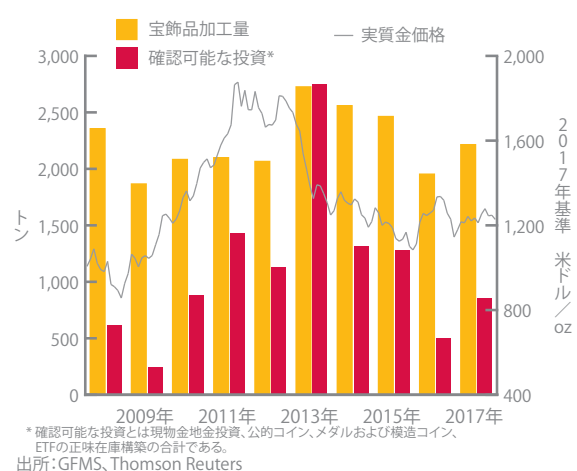
昨年は、金の現物需要が2013年以来の増加に転じて前年比で10%増加した。主な原動力となったのは宝飾品加工量で、前年比で13%も増加して2,214トンに達した。インドの宝飾需要は、規制の大幅な変更によって2016年に急減したが、2017年には年央の物品・サービス税(GST)施行に先駆けて市場が在庫を仕入れたために前年比で58%もの急増となった。他方、中国の宝飾需要は3%減少したものの、2013年にピークを付けて以降では最小の減少にとどまり、中国市場がほぼ落ち着いたことを示唆した。さらに、大半の地域では宝飾加工需要が増加し、中東、欧州、北米でそれぞれ対前年比4%増、2%増、1%増となった。宝飾需要以外では、工業用需要も7年ぶりの増加に転じたが、小口投資需要と地金・コイン需要はそれぞれ1%と3%の減少となった。

世界の宝飾品加工量は2016年に急減したが、2017年にはインドの大幅な消費回復に牽引されて13%増の2,214トンに達した。ドル建て平均価格がかなり安定していたことから、インド以外の地域では主に自国通貨安が宝飾需要に影響を与えた一方で、先進国では経済の足場固めが進んだことで需要が高まった。2017年の宝飾需要はこのように大幅に増加したものの、2013年に記録した異例の水準をまだ500トンすなわち18%下回っていた。宝飾需要の増加に最も貢献したのはインドで、2016年には市場が規制変更への対応に苦慮して需要が急減したが、2017年には58%も増加して史上2番目となる伸びを記録した。欧州と北米では、安定した金価格と消費者の信頼回復によって、需要がわずかながらも増加した。東アジアの宝飾品加工量は2017年に2%減少して865トンまで落ち込み、4年連続の減少となったものの、2012年以降最低の水準となった。この地域の需要減少の大半を占めたのが中国で、構造変化の続く同国の宝飾市場では、低カラットの宝飾品志向が一段と強まったことから、純金の消費量が減少し、金の宝飾需要が3%減少した。中東では、宝飾品に対する輸入関税の導入が打撃となった市場もあり、宝飾需要はまちまちで、アラブ首長国連邦(UAE)とイランの需要は大幅に増加したが、サウジアラビアとエジプトの需要が一段と減少して足かせとなった。

世界の金の需要



宝飾品加工量と確認可能な投資



好調さを増す世界経済によって、2017年の工業用・歯科用需要は2010年以来の増加に転じ、4%増の379.6トンとなった。需要を押し上げたのは、この用途の需要の大半を占めるエレクトロニクス部門で、2016年最終四半期からの回復局面により、2017年の需要は前年比5%増の推定276.9トンと、3年ぶりの高水準に達した。その他の工業用・装飾用需要は3%増加したが、歯科用需要は引き続き長期減少基調を辿り、前年比で3%減少した。

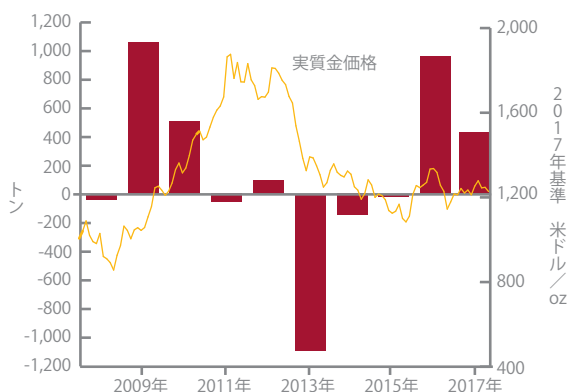
公的部門による金の正味購入量は2017年に前年比36%増の計366トンとなり、8年連続で堅調な水準を維持した。ロシアは2017年に同国史上最大となる224トンの金を購入し、世界における金の最大購入国としての地位を堅持した。他方、トルコはグロスで86トンの金を購入し、中央銀行の金保有量が準備オプションメカニズム(ROM)政策を導入した2011年以来の増加となった。他方、グロスの売却量は2017年に前年比で55%減少した。その主な原因はベネズエラにあった。売却量は減少基調を辿っており、ロシア、トルコ、中国(今回は2016年10月に金準備の変動を報告)の買いが牽引役となって、今年もこの基調が続くと予想されている。公的部門の購入量は引き続き増加して450トンになると試算される。

現物金地金・コイン投資とETFの在庫増減を含む確認可能な投資需要は2017年に前年比24%減の計1,205トンまで落ち込んだ。また、投資額(名目値)は前年比23%減の490億ドルであった。大幅な落ち込みの主因はコイン需要の低迷で、2017年には248トンと、2007年以來の最低水準まで落ち込んだ。また、乏しい値動きと他の資産クラスとの競争によって、金地金の需要も1%減少した。他方、ETFの在庫は2017年に177トン増加したため、年末の在庫残高は前年比9%増の2,262トンとなった。

価格と市場の見通し

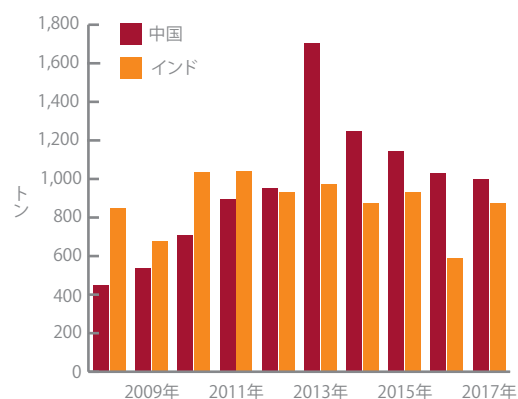
2018年の年間平均金価格は1,360ドル/ozになり、金相場は2018年終盤に一時的に1,500ドル/ozに迫ると予想する。というのも、地政学的状況と株式相場が引き続きリスクヘッジとしての金の役割を後押しすると考えているためである。中東情勢の緊張や英国のEU離脱交渉に加え、トランプ米大統領の政策を巡る先行き不透明感が引き続き金相場の重要な原動力となるであろう。こうした背景から、今年はETFの需要が350トンに達し、177トンの緩やかな純増にとどまった2017年の水準から回復すると予想される。また、金に対する投資家心理の好転と価格先高観によって金地金の需要が上向くため、小口投資需要も2018年には4年連続の減少から増加に転じると見込まれる。もう一つの強気材料は、中国の中央銀行が金の購入を再開し、その結果として公的部門の正味購入量が世界全体で400トン強になると予想されることである。もっとも、すべてがバラ色になるわけではなく、コイン需要はさらに減少すると予想される。というのも、このセクターは価格動向に敏感な投資家が多く、金価格が上昇すれば、こうした投資家が買いを控えるとみられるためである。金価格の上昇は宝飾需要にとっても逆風となり、カギを握るインド市場の需要が再び減少に転じて、世界の宝飾需要は3%減少すると予想される。さらに、鉱山生産量は2017年に13年連続の増加から小幅な減少に転じたものの、ロシアの生産量増加と中国の生産量安定に支えられて、再び増加に転じると予想される。

金の現物過不足



出所: GFMS, Thomson Reuters

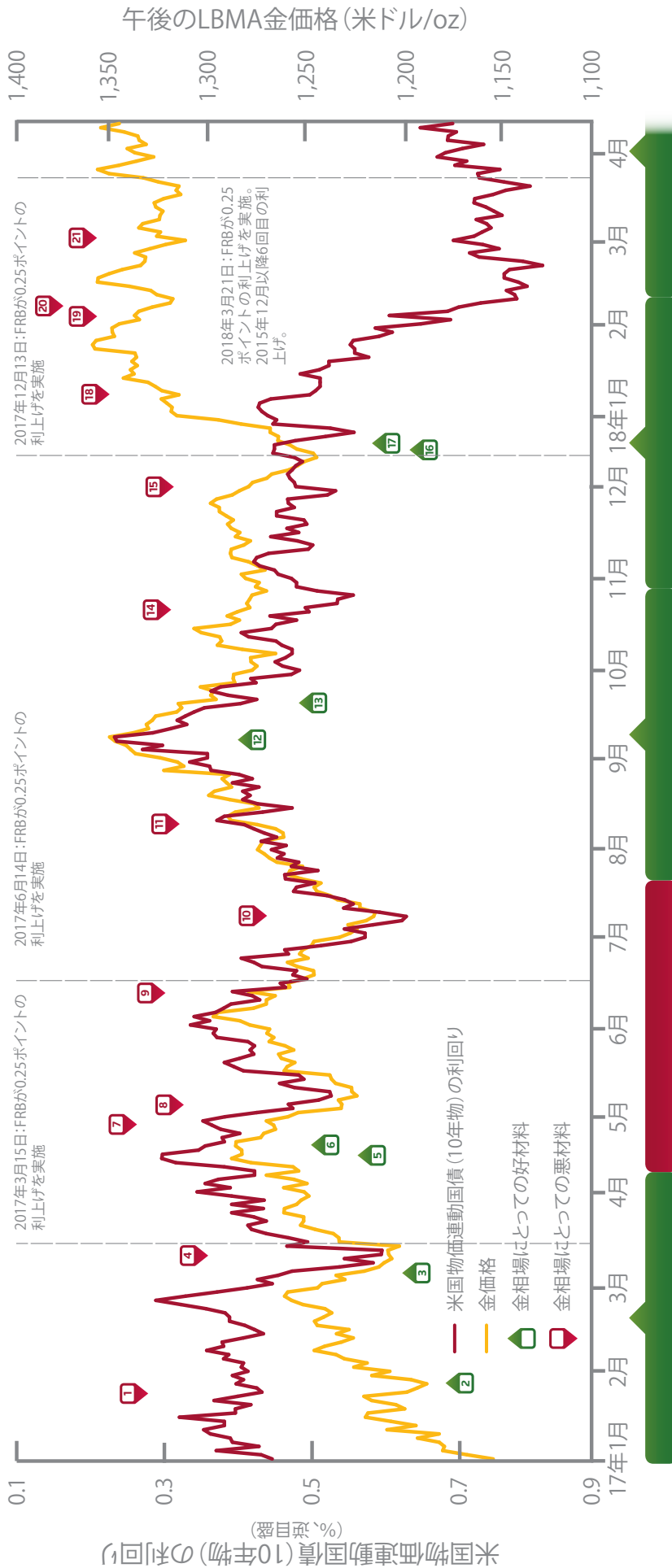
中国がインドを上回って世界最大の金消費国に*



出所: GFMS, Thomson Reuters

* 需要は宝飾品加工量、工業用加工量、小口投資で構成される。

金価格と米国物価連動国債(10年物)の利回り(日次)



- [01] 2017年1月26日:インフレ上昇観測が高まる中で、S&P500株価指数、ダウ平均株価、ナスダック総合指数はいずれも史上最高値を更新。
- [02] 2017年1月31日:為替操作に関するトランプ米大統領のコメントを受けて米ドル指数が下落し、100を割り込む。
- [03] 2017年3月3日:投機筋の買い越し量が14週ぶりに増加。投資家はCOMEXで先物のショートポジションを36トン縮小。
- [04] 2017年3月10日:米国雇用統計の発表を控え、金相場が逼迫される。
- [05] 2017年4月14日:北朝鮮を巡る緊張を受けて、金価格は5か月ぶりの高値付近まで上昇し、週間上昇率が2016年6月以来の高水準に向かう。
- [06] 2017年4月21日:10年物米国債の利回りがほぼ5か月ぶりの水準まで低下。ドル指数も下落基調。マネーワードマネーの買い越し量が65トン増加。
- [07] 2017年4月24日:フランス大統領選挙の結果を受けたリスク選好心理によって株式相場が上昇。フランス大統領選挙については、5月7日の決選投票でマクロン氏とルペン氏が対決。
- [08] 2017年5月5日:米国の緊縮な雇用統計を受けて、利上げ観測が高まり、金相場は2か月ぶりの大幅な週間下落率を記録。ユーロ圏の政治リスクは後退。
- [09] 2017年6月9日:ECB(欧州中央銀行)がインフレ予想を下方修正したことから、ユーロが下落。
- [10] 2017年7月7日:米国の非農業部門就業者数が堅調だったことから、ドル相場と米国債相場の双方が上昇。
- [11] 2017年8月4日:労働市場逼迫の兆候により、FRB(米連邦準備制度理事会)はインフレ率が目標の2%まで上昇すると確信。
- [12] 2017年9月6日:CFTC(米商品先物取引委員会)が2億9,000万ドルの貴金属計帳でMonex Deposit Companyを告発。
- [13] 2017年9月25日:北朝鮮は「米国が宣戦布告を行った」と非難。緊張が高まる。
- [14] 2017年10月20日:米国の税制改革に対する期待がリスク資産の追い風となり、金相場は下落。
- [15] 2017年12月1日:上向きの米経済統計とイエレンFRB議長の強気の経済見通しを受けて、金相場は3週間ぶりの安値を付ける。第3四半期のGDP成長率が3.3%に上方修正。
- [16] 2017年12月15日:投機筋が2週連続で買い越しを縮小し、買い越し量は計250トンまで減少。
- [17] 2017年12月20日:米上院が税制改革法案を可決。この法案が成立すれば、政府債務が1兆5,000億ドル増加すると試算されている。
- [18] 2018年1月9日:日銀が国債買い入れ額の減額を決定したことを受けて、10年物米国債の利回りが2.5%を上回る水準まで上昇。実質金利も上昇。
- [19] 2018年2月5日:ジェローム・パウエル氏がFRB新議長に就任。
- [20] 2018年2月6日:米国の賃金上昇が市場の懸念材料になる。投資家がVIX(恐怖指数)のショートポジションを手仕舞う。VIXが急上昇。
- [21] 2018年3月2日:マネーワードマネーが買い越し量を92トン縮小。

第2章 投資

- 現物投資、すべてのコインおよびETFの在庫構築を含む確認可能な投資は2017年に前年比24%減の計1,205トンまで落ち込み、金額では23%減の490億ドルとなった。
- 現物需要はほぼ安定しており、前年比でわずか6トンの減少にとどまったが、北米ではこれを大幅に上回る需要減少となった。
- 確認可能な投資が減少した主因はコイン需要の低迷にあった。2017年のコイン需要はわずか248トンと、2007年以来の最低水準にとどまった。他方、ETFの在庫は2017年に増加したものの、増加量の177トンは2016年の増加量を67%も下回った。
- ETFの在庫は前年に続いて増加したものの、増加量の177トンは前年の増加量を67%も下回った。ETF全体の金保有量は9%増加して、2017年末に2,262トンとなった。
- COMEXでの投資活動は昨年も引き続き拡大し、金投資に対する市場心理の好転を支えた。年間の出来高は計7,300万枚で、22万6,438トンの金に相当する。出来高の増加は、COMEXが世界の商品取引所の中で圧倒的な地位を確立していることを証明しており、COMEXの市場シェアも2016年の70%強から2017年に80%強まで拡大した。

概要

2017年には、FRB(米連邦準備制度理事会)が3回にわたって利上げを実施し、バランスシート縮小のための措置を早期に講じたにもかかわらず、ドル指数が年末に92.1となり、前年比で10%も下落した。地政学上の懸念とドル安を追い風として、金価格は12%上昇し、銀価格の上昇率を上回った。現物需要は主に西欧諸国で減少したものの、この落ち込みを一部の新興国市場の需要回復が補い、全体では前年並みの水準を維持した。ETF全体の金保有量は9%(177トン)増加して年末に2,262トンとなり、商品取引所での投資活動もCOMEXを中心として引き続き拡大した。しかし、昨年はコイン需要が低迷し、2007年以来の最低水準まで落ち込んだ。金価格が上昇基調を辿ったため、価格動向に最も敏感であるとされるコイン投資家は押し目買いを狙いながらも模様眺めに終始することとなった。また、米国を中心として景況感が上向いていることから、リスク選好が強まり、コインへの関心が後退している。中古コイン市場でのプレミアムがかなりの低水準にとどまっていることも、新規コイン需要の足を引っ張る重要な要因となった。

先行きを展望すると、世界の金投資は2018年も引き続き拡大すると予想される。ドル指数は依然として低調で、2018年の年初から3ヵ月間にさらに2.3%下落した一方で、金に対する需要は依然として高水準にある。金融市場では様々な要因による影響が勘案されているが、貿易戦争の可能性、ロシアと西欧諸国の関係、シリア内戦の行方、米中の継続する政治的駆け引き、米国内の分断悪化の可能性、さらなる株価下落の可能性といった要因はいずれもリスク分散手段としての金の潜在力を支えている。

確認可能な投資*

(トン)	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
小口投資	1,871	1,162	1,160	1,043	1,028
うち金地金	1,444	886	875	786	780
うちコイン**	426	276	284	257	248
ETFの在庫構築	-879	-155	-117	539	177
確認可能な投資合計	992	1,007	1,043	1,582	1,205
実勢価額(十億米ドル)***	45	41	39	64	49

*先物市場とOTC市場の投資活動を除く。

**公的コインならびにメダルおよび模造コイン。

***LBMA(ロンドン地金市場協会)午後の値決め価格の年間平均を使用して年次ベースで算出した参考金額

出所:GFMS、Thomson Reuters

商品取引所での活動

COMEXにおける金先物取引の出来高は2017年に26%増の7,300万枚となった。これは名目ベースで22万6,440トンに相当する。2017年12月末の取組高は1,539トンで、前年末の水準から17%増加した。出来高の増加は、COMEXが世界の商品取引所の中で圧倒的な地位を確立していることを証明しており、COMEXの市場シェアは2016年の70%強から2017年に80%強まで拡大した。また、商品取引所における金投資活動の増加は投資活動と金価格が正の相関関係にあることも証明した。実際、COMEXにおける投資活動のデータとして代用することができるCFTC(米商品先物取引委員会)のマネージドマネーに関する報告書によると、2016年末の米国の利上げを受けて金相場が1,200ドルをやや下回る水準で下値を固めた2017年の年明けには、買い越し量もかなりの低水準にあったが、金価格が上昇基調を辿ると、買い越し量も増加し続け、金価格が1,327ドルに達した9月半ばには買い越し量が824トンのピークを付けた。その後は、金価格が下落に転じて年末に1,260ドルまで落ち込むと、マネージドマネーの買い越し量も減少した。しかし、それでも上半期の平均はまだ上回っており、金に対する投機筋の関心が依然として強いことが示された。

中国では、市場の関心が石炭や鉄鉱石などの黒色鉱物に集中し、金があまり顧みられなかったため、国内の商品取引所の出来高も2017年に総じて減少した。人民元建て金価格があまり上昇せず、年間3%の上昇にとどまったことも投機筋の関心を後退させる要因となった。SHFE(上海期貨交易所)の出来高は2017年に前年比で44%減少して、名目ベースで1万9,478トンまで落ち込んだ。他方、中国において付加価値税(VAT)が免税される金を唯一合法的に供給するSGE(上海黄金交易所)では、出来高が2017年に1.4%とわずかながらも増加して名目ベースで1万5,710トンとなった。

MCX(インド・マルチ商品取引所)の貴金属出来高は2017年に急減し、ベンチマークとなる金先物の出来高は計2,297トンと、2004年以来の低水準まで落ち込んだ。ちなみに、MCXでは、金先物取引を2003年に開始し、出来高は2008年に1万4,024トンでピークを付け、2017年には前年比で56%減少した。昨年は、MCX経由の現物の受け渡しも減少し、前年比で15%減の4.79トンと、2005年以来の低水準にとどまった。減少の主因は高額紙幣廃止の後遺症で、非公式市場での流動性逼迫による投機的な取引の減少にあった。全体像を見ると、投機取引の月間平均は高額紙幣廃止前の2016年には367トンであったが、廃止後には191トンまで落ち込んだ。

商品取引所の金取引

(名目ベースのトン相当の出来高)

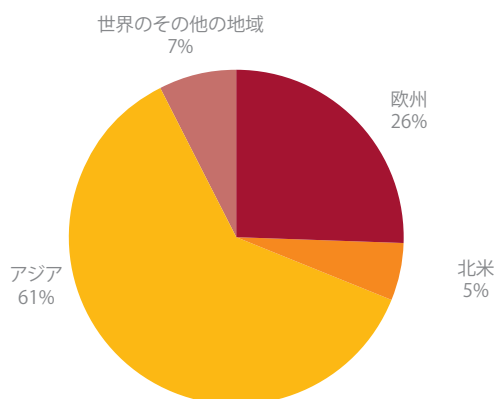
	2015年	2016年	2017年	前年比増減
COMEX	130,135	179,047	226,440	26%
SHFE	25,317	34,760	19,478	-44%
SGE*	7,288	11,793	11,754	0%
TOCOM	7,928	8,541	6,398	-25%
MCX	3,947	4,094	2,297	-44%
SGE Spot	4,727	3,699	3,956	7%
DGCX ¹	348	453	359	-21%
ICE Futures US	508	294	152	-50%
Borsa Istanbul ²	383	339	426	26%

*SGEのすべての取引、但しスポット取引を除く現物による裏付け

¹現物による裏付け ²100%現物引き渡し

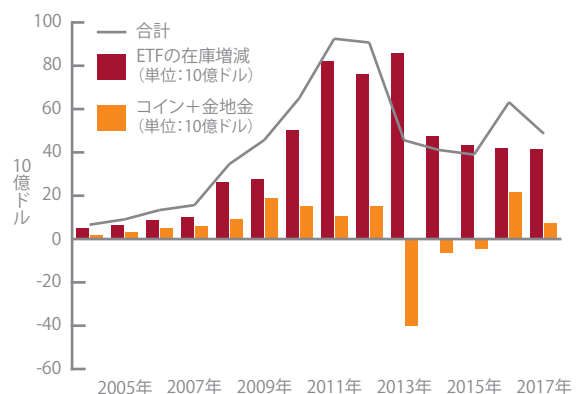
出所: Thomson Reuters、関連取引所

金地金とコインの地域別需要(2017年)



出所: GFMS, Thomson Reuters

現物投資需要(金地金+コイン+ETF)



出所: GFMS, Thomson Reuters

ETF（上場投資信託）

ETF全体の金保有量は2017年に9%増加して、年末には計2,262トンとなった。北朝鮮を巡る地政学的緊張とドル指数下落の加速によって金相場は急騰し、世界の投資家が金ETFに資金を投入した。もっとも、資金流入ペースは前年の水準から減速した。

ETF全体の金保有量を金額に換算すると前年比21%（170億ドル）増の940億ドルとなる。また、通年のネットフローは計73億ドルであった。ちなみに、2016年はETFの金保有量が539トン（34%）増、金額に換算すると780億ドル増となり、ネットフローは218億ドルであった。2016年終盤には、米国大統領選挙におけるドナルド・トランプ氏の勝利を受けて楽観的な市場心理が強まったが、2017年第1四半期には、トランプ大統領による医療保険制度改革（オバマケア）代替法案が議会で廃案になり、市場はやや現実に目を向けるようになった。市場が減税法案やインフラ改革法案も同じような障害に直面することを懸念し始めたことから、米国株式指数は辛うじて現行水準にとどまったものの、株式相場は全般的に軟調になり、ドル相場の下落も加わって、金の需要を支えた。結果として、2017年第1四半期にはETF全体の金保有量が103トン増加し、四半期ベースでは年間最大の増加となった。

FRB（米連邦準備制度理事会）は6月に2度目の利上げを実施したが、やや予想外だったのはFRBが年末に向けてバランスシートを縮小するとの意向を明らかにしたことであった。もっとも、これらはいずれもドル相場の支援材料にはならず、ドル指数はやや回復した後に、下落基調を辿った。EUの予想外に堅調な経済統計もドル安に拍車をかけた。第2四半期には、ETFの金保有量が42トン純増した。

北朝鮮を巡る脅威が払拭されず、7月の米インフレ統計が予想外に軟調であったことに加え、カナダの中央銀行が予想外の利上げを実施したことから、第3四半期の期初には、ドル相場が下落圧力を受けた。トランプ大統領が連邦債務の上限を年末まで引き上げることに合意すると、ドル相場の下落に歯止めはかかったものの、ドル相場の回復は緩やかな水準にとどまった。しかし、9月半ばに発表された統計から、5ヵ月連続で目標水準に達しなかったインフレ率が8月には軌道に戻ったことが示された。市場では年末の利上げ観測が高まり、金相場は下落に転じた。イエレンFRB議長のタカ派的な発言に加えて、下落基調にあったドル相場が反転したことで金相場をさらに圧迫した。ETFの金保有量は第3四半期に24トン増加した。

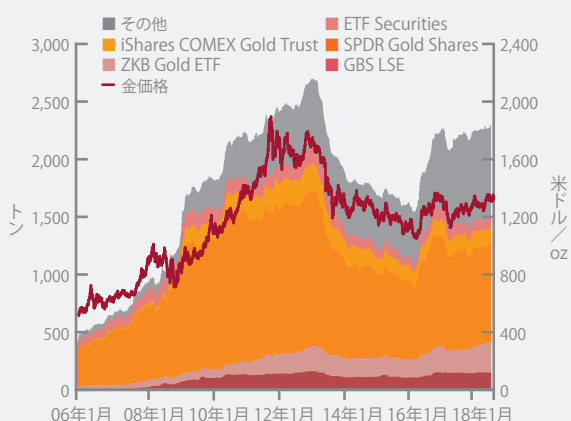
第4四半期の金相場の反応は典型的であった。すなわち、12月の利上げ予想を受けて金相場は利上げが決定されるFOMC（米連邦公開市場委員会）を控えて下落圧力を受けたが、利上げ決定後にすぐに底を打った（まさに「噂で売って、事実で買う」の事例）。トランプ米大統領の税制改革法案が議会で可決されたにもかかわらず、ドル相場は第4四半期に下落基調を辿った。ドル指数は年末に92.1となり、1年間で10%下落した。他方、金相場は1年間に13%上昇し、堅調な地合いのまま年末を迎えた。ETFの金保有量は第4四半期にわずか8トンの増加にとどまった。

個々のETFに関しては、ETF全体の金保有量の約37%（2016年の40%から縮小）を占める最大の金ETFであるSPDR Gold Sharesの金保有量がわずか15トン（前年比で2%未満）の増加にとどまり、2016年の181トンの増加量を大幅に下回った。

同様に、中国を拠点とするETFの金保有量は2016年に427%（43.1トン）も増加したが、2017年には7%の減少となった。

2017年は投資業界が意表を突かれた1年であった。FRBがバランスシートの縮小を巡る詳細を含めて、金利正常化プログラムを続行したにもかかわらず、ドル相場は急落した。2018年になり、ETFの金保有量は31トン増加して、第1四半期末に2,293トンとなっている。ETFの金保有量の増加は、金相場が引き続き上昇して、第1四半期に前期比2%弱の上昇となったことと関連している。ドル相場の下落も続いており、ドル指数は同時期に2%を上回る下落となった。

金ETFとその他の類似商品



出所：GFMS、Thomson Reuters、各ETFの発行体のデータを収集分析

現物金地金投資

— 2017年の現物地金への投資需要は780トンとなり、南米とアジアの需要増加が北米と欧州の需要減少を補って1%未満の減少にとどまった。

欧州の現物地金への投資需要は2年連続で減少し、2016年の5%減に続いて2017年には4%減となり、世界金融危機以前(正確には2007年)以来の最低水準となる201トンまで落ち込んだ。昨年は2016年末の堅調な需要を引き継ぎ、1月と2月の需要がいずれも前年同月の水準を上回って好調なスタートとなったものの、通年の需要は前年の水準を割り込んだ。年明けの旺盛な需要は様々な要因に支えられたが、とりわけ金相場下落、トランプ新政権を巡る懸念、高値にありながらも上昇を続ける株式相場が顕著な要因となった。この段階では、ドイツ市場が需要を主導。同市場は欧州の現物地金への投資需要のほぼ半分を占め、この地域の需要のカギを握る存在だが、2017年には夏場の需要減少でも先導役となり、年末には季節要因によって需要がやや上向いたものの、第2四半期以降の3四半期の需要はいずれも前年同期の水準を割り込んだ。欧州大陸では、広範にわたって景気が上向き、これによって株式やその他の資産クラスの投資妙味が高まったことから、現物地金への投資需要も欧州大陸全域にわたって減少した。欧州第2の現物地金市場であるスイスでは、スイスフラン建て金価格がレンジ内の動きに終始したため、金に対する投資家の関心が後退し、現物地金への投資需要の落ち込みは大半の国を上回った。こうした低調な状況とは好対照となったのが英国で、英ポンド建て金価格が2017年上半年期を中心として上昇したことに加え、マクロ経済情勢が低調だったことから、現物地金への投資需要が前年比で3%増加して4年ぶりの高水準となった。

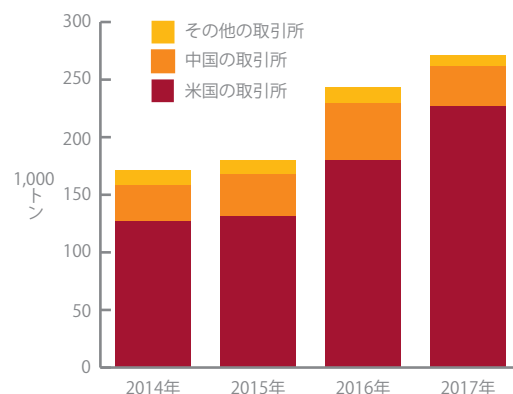
北米の現物地金への投資需要は、米国の急減によって2017年に25%も減少した。実際、コイン需要は金地金需要以上に低調であった。基本的な原因はほぼ変わらず、以前の旺盛な需要によって供給がだぶついて新たな関心がなくなるといったものであった。これが特に顕著だったのは株式相場が高値の更新を繰り返した時期で、金相場は動きが乏しかったため、新高値を狙うことも押し目買いを狙うことも難しかった。

インドの現物地金への投資需要は昨年、2004年以来で2番目の低水準にとどまった。とは言え、前年比では7%増の93.9トンとなった。さらに、第2四半期と第4四半期の需要が全体の64%を占め、需要の大半がアクシャヤ・トウリティヤ(最高の吉日の1つ)とダンテラス(買い物の吉日)のための購入であったことは明らかである。高額紙幣廃止後は、所得を退蔵する手段として、現金の保有よりも金が安全であると考えられるようになった。さらに20万ルピーを上回る取引を禁じた新所得税法(269ST)が加わり、この法律に違反すると取引相当額の罰金を支払うことになったため、所得の退蔵に関しては現金ではなく金で保有する方が理に適っていた。市場では100グラム以下の標準的な鑄造金地金から半精製地金へのシフトが起きている。半精製地金は中古宝飾品を溶かして作成されるため、源泉を辿ることができないからである。インドでは全国的にデジタルウォレットを通じた金の購入に対する関心が高まっている。さらに重要なのは、現物の裏付けのないソブリン・ゴールド・ボンドを通じた貯蓄によって投資資金が金の現物保有からシフトしていることで、昨年は約10トンのシフトがみられた。

中国では、英国のEU離脱決定、米大統領選挙でのドナルド・トランプ氏の勝利、人民元下落に対する懸念などに刺激されて、投資需要が2016年に7%増加したが、昨年はこうした懸念材料がなかったため、7%減の220トンまで落ち込んだ。

同国では2017年に、投機筋が目先の利益を狙ったため、仮想通貨への投機が最高水準を更新した。昨年の仮想通貨の上昇と仮想通貨に対する市場の熱狂が中国の資金と関心を原動力としており、さらに小口投資需要に影響を与えたことに疑いの余地はない。中国の投資家は、昨年の金投資の収益が仮想通貨投資や株式投資と比べると低調だったことに気づいた。実際、2017年には、米ドル建

世界の取引所における活動



出所:GFMS, Thomson Reuters

て金価格が前年比で2桁の上昇となった一方で、人民元相場の上昇によって人民元建て金価格はわずか3%強の上昇にとどまった。

過去2年間には、様々なオンライン取引アプリの登場により、若年世代を中心として金投資の認知度や浸透度が間違いなく高まった。しかし、多くの投資家は金を長期保有して値上がりを待つのではなく目先の売買益を追求して、金を金融派生商品(デリバティブ)のように売買した。

2017年12月には、かなり大規模なゴールドラッシュがあり、押し目買いを望む投資家が店頭に現れて金地金を求め、多くのショーケースを空にしていった。FRBが12月のFOMCで利上げを決定したことを受けて、投資家は金相場がすでに底を打ったと推測したが、通年の需要水準を押し上げることには間に合わず、金相場の下落を抑えるにとどまった。

中国以外のアジア諸国については、**タイ**の需要が2017年に大幅に回復した。相場があまり変動しなかったことから、タイの金地金需要は1年の大半を通じて低調で、10月も需要は低迷したが、11月の需要は目を見張るほどではないものの堅調な水準となった。もっとも、12月第1週にタイパーツ建て金価格が下落し、パーツバー(15.16グラム)が心理的な壁となる2万パーツを割り込んで2016年12月以来の水準まで落ち込むと、市場が沸き立ち始めた。2万パーツ割れという水準は多くの投資家にとっても、保有する貴金属を買い支えたいと望む消費者にとっても、明らかな買いシグナルであった。通年の投資需要は48%も急増して81.2トンとなり、3年ぶりの高水準に達したが、2013年に記録した150トン弱には届かなかった。

他方、**インドネシア**では、金相場の変動が乏しかったことが逆風となり、金以外の資産クラスが金相場以上の値上がりとなったこともあり、金投資は非常に低調であった。**日本**でも、金に対する小口投資は年初からの8カ月間の大半を通じて非常に低調だったが、9月には急回復を遂げた。しかし、これも短期的な動きで、朝鮮半島を巡る緊張が高まった直後に安全資産の買いによって現物地金への投資需要が一時的に増加したに過ぎなかった。こうした需要増加は売りが支配的になっていた相場を補うには不十分だったことから、2017年には4.7トンの投資引き揚げとなった。

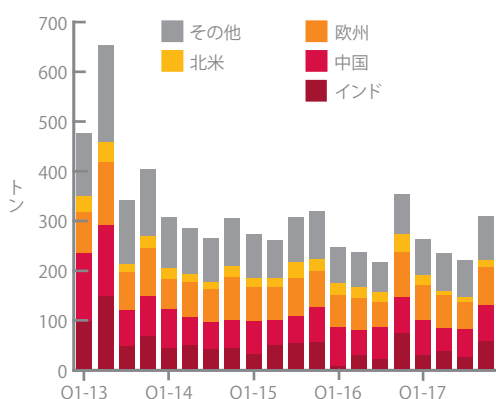
公的コイン

— 世界の公的コイン鑄造量は2017年に前年比10%減となり、2007年以来の最低水準まで落ち込んだ。

金貨加工量は2年連続で増加していたが、2017年には減少に転じて、10%(21トン)減の計184トンまで落ち込んだ。第3四半期には一時的に需要が回復して前年同期比24%増となったものの、それ以外の3四半期の需要はいずれも前年同期の水準を割り込んだ。落ち込みは四半期によってまちまちで、特に第4四半期には前年同期比35%(25トン)減と、年間最大の落ち込みを記録した。

2017年におけるコイン加工量の増減は、各地域の需要動向と地域による違いに注目することによってほぼ説明する

小口投資



出所: GFMS, Thomson Reuters

ことができる。特に、ドナルド・トランプ氏が次期米大統領になると判明した2016年末の結果から考えるとわかりやすい。2017年には、北米の金貨加工量が前年比で50%以上(37トン)も減少して2007年以来の低水準まで落ち込む一方で、欧州の金加工量が12%(6トン)増加した。米国では、ドナルド・トランプ米大統領の誕生によって景況感が上向き、株式相場が相次いで高値を更新すると、投資家のリスク指向が強まった。他方、欧州では、トランプ氏の米大統領就任によって、地政学的懸念が強まり、先行き不透明感が増したため、投資家は安全資産へと殺到した。(同様に重要なのが、中古コイン市場も北米の鑄造量に影響を与えたこと、すなわち中古コインの低調なプレミアムがコイン発行市場の逆風になったことに注目することである。)

欧米以外の地域では、アフリカのコイン加工量が前年比39%（14トン）増の29トンとなって我々が記録する地域史上最高水準に達し、最も際立った増加となった。昨年は、ランドリファイナリー社の投資用コインであるクルーガーランド金貨の発行50周年に当たったため、この金貨の需要が増加した。同時に、安全資産への需要もさらなる支援材料となった。アジアでは、人民元建て金価格が前年比で3%の上昇にとどまるなど、自国通貨安によってコインへの関心が後退した。他方で、円建て金価格は前年比で9%上昇して、2015年6月以来の高値に達した。

インドでは、主に贈答や季節要因による購入によって、メダルおよび模造コインの需要が前年比で29%増加したと推定される。とは言え、前年の2016年は2005年以来の最低水準となっており、2017年には4年連続の減少に終止符が打たれたものの、59.5トンの需要は過去10年間で2番目に低い水準であった。インド南部の一部の州では特に、韓国で製造されて二国間協定に基づいて輸入されたメダルも投資用コインとして販売された。金貨が小口ゴールドローンの担保の対象外となった2013年以降、コイン需要は大幅に減少している。そのため、メダルには留め金を施し、宝飾品として分類できるようになっている。

OTC（相対）取引と比較して人気が高まっているCOMEXでの金取引

2017年のOTC（相対）取引は前年と同様の水準にとどまった。経験則によれば、LBMAのロコ・ロンドン取引量は振替量の約3倍である。世界のOTC取引量を推定するためには2017年のロコ・ロンドン取引が全体の74%を占めることを前提とする必要がある。ちなみに、この割合は2016年の70%から拡大したが、これは中国のOTC市場が縮小したためである。中国では、当局がリスク管理のために市場の監視と規制を巡る取組みを強化したことから、OTC市場が2017年に縮小した。そのため、LBMAの振替量が5%増加したものの、2017年のOTC取引量は世界全体で210億オンスと、2016年と同様の水準にとどまったと推定される。この水準を長期的な観点から考えるために、LBMAが日次振替量を公表し始めた1997年のOTC取引量が約310億オンスであったことを記しておく。

他方、金取引におけるCOMEXの取引シェアが拡大している。2017年のCOMEXの金取引量は、OTC取引の約35%となり、2016年の27%から拡大した。ちなみに2006年のCOMEXの取引量は、OTC取引のわずか10%相当に過ぎなかった。COMEXにおける取引の理論上の利点は、OTC取引の相対取引とは異なり、クリアリングハウスを介した決済によって直接のカウンターパーティ・リスクがなくなること、ならびに証拠金取引であることの2点である（もともと、証拠金取引については固有のリスクもある）。COMEXでの金取引の対OTC取引比は今後も拡大を続けるであろう。

公的コイン（中古金スクラップの利用を含む）

(トン)	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
南アフリカ	8.7	23.2	20.0	23.8	23.7	27.5	21.5	27.7	35.2	49.0
トルコ	53.1	30.9	35.6	58.9	39.9	90.6	40.5	19.8	22.4	38.0
中国	5.5	6.7	8.5	23.9	21.4	21.8	14.8	22.9	31.1	25.4
カナダ	27.6	38.2	34.1	35.8	23.9	35.5	22.1	29.7	30.6	18.6
米国	33.7	50.5	44.5	36.5	27.5	34.1	21.8	32.9	38.4	13.3
オーストリア	24.9	33.4	17.9	21.1	12.4	20.3	15.0	23.5	17.4	12.8
オーストラリア	9.6	11.0	8.4	10.6	10.0	16.2	11.6	9.9	10.9	8.2
英国	4.3	4.7	4.4	5.8	6.8	4.9	4.7	9.5	8.9	7.6
イラン	18.4	29.2	39.6	52.3	55.0	58.0	33.6	27.0	2.5	6.3
フランス	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.4	0.8	0.8	0.4	1.5
メキシコ	2.5	0.3	2.3	0.2	1.4	1.4	1.2	1.3	0.9	1.4
ドイツ	5.5	5.0	5.0	4.7	5.0	4.2	4.2	0.8	1.0	0.8
タイ	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
その他の諸国	8.4	11.5	8.1	7.4	8.9	7.4	6.4	5.2	5.1	0.7
世界の合計	202.5	245.1	228.7	281.4	236.2	322.4	198.4	211.1	204.9	183.7

出所：GFMS, Thomson Reuters

現物金地金投資

(トン)	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
欧州										
ドイツ	109.1	128.7	121.7	154.5	104.1	112.5	97.0	109.2	103.2	99.9
スイス	88.8	97.1	92.4	115.9	80.5	65.1	44.6	44.5	41.2	38.6
ベルギー	-0.1	12.2	18.7	23.8	19.2	21.0	20.4	20.3	17.2	15.3
英国	0.0	4.7	9.3	10.4	15.1	13.4	7.4	6.9	9.6	9.8
その他	18.1	11.1	-4.0	46.4	37.4	41.4	41.4	40.5	39.1	37.5
欧州合計	216.0	253.7	238.1	350.8	256.2	253.4	210.7	221.4	210.3	201.3
北米										
米国	51.4	63.5	62.0	47.5	25.9	33.4	24.8	27.3	28.7	21.0
カナダ	5.2	7.4	3.4	5.1	2.6	5.0	1.5	2.0	1.5	1.5
メキシコ	5.3	3.3	2.8	2.9	2.8	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
北米合計	61.9	74.3	68.3	55.5	31.3	38.4	26.4	29.3	30.2	22.5
南米										
ベネズエラ	0.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.6	2.0	2.0	2.0	2.2
その他	0.0	0.6	0.3	0.4	0.5	1.2	0.3	0.3	0.3	0.3
南米合計	0.0	2.6	2.3	2.4	2.5	3.8	2.3	2.3	2.3	2.4
アジア										
中国	60.8	102.3	178.6	237.8	249.3	412.1	231.5	220.9	236.8	220.0
インド	159.9	117.5	266.3	288.0	205.9	265.8	109.8	124.1	87.6	93.9
タイ	42.6	-10.1	63.0	103.6	101.9	148.9	84.4	68.6	55.0	81.2
ベトナム	96.2	58.2	67.0	87.8	71.4	81.8	53.3	42.0	42.3	35.4
イラン	30.6	15.7	33.8	40.4	44.2	46.4	31.5	27.2	0.0	17.4
韓国	-0.6	-16.2	1.2	6.0	5.5	14.2	16.0	20.6	15.6	16.6
インドネシア	2.9	-6.0	15.3	24.8	22.1	43.1	18.1	11.3	14.7	12.7
パキスタン	-4.4	-19.4	7.0	14.6	12.3	23.9	13.4	15.6	10.5	9.7
サウジアラビア	13.5	10.9	14.5	17.4	16.3	17.8	14.6	14.5	11.2	9.3
シンガポール	0.4	-0.3	0.9	3.9	5.2	8.4	8.7	6.3	7.0	7.1
その他	-15.4	-26.7	-22.1	-1.7	17.2	53.7	39.6	48.9	47.7	33.8
アジア合計	386.5	226.0	625.6	822.6	751.3	1,116.1	620.9	600.0	528.5	537.1
オセアニア、その他										
オーストラリア	2.9	4.4	10.2	15.5	14.8	17.6	16.2	15.1	15.0	13.8
エジプト	0.4	0.7	1.2	0.7	0.8	15.2	9.9	7.4	-1.4	2.4
オセアニア、その他合計	3.3	5.1	11.3	16.2	15.6	32.8	26.1	22.5	13.6	16.2
世界の合計	667.1	561.7	945.6	1,247.6	1,057.0	1,444.5	886.5	875.4	785.9	779.5
内訳:										
中東*	61.4	35.1	65.8	93.1	85.0	113.1	88.1	72.2	30.2	50.6
東アジア*	211.4	167.3	333.9	486.2	475.4	736.1	428.3	396.3	400.2	390.4
CIS*	4.4	4.9	3.1	2.8	2.7	2.7	2.8	2.6	2.4	2.2
インド亜大陸*	160.9	118.0	273.8	304.4	220.8	293.0	126.0	142.6	101.6	107.1

出所:GFMS、Thomson Reuters *地域の主要金地金市場

メダルおよび模造コイン(中古金スクラップの利用を含む)

(トン)	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
インド	63.5	53.5	82.6	80.0	106.3	96.3	70.8	66.5	45.8	59.1
その他	6.2	5.4	5.7	7.8	7.1	7.5	6.6	6.8	6.3	5.6
世界の合計	69.7	58.9	88.3	87.8	113.4	103.8	77.4	73.4	52.1	64.7

出所:GFMS、Thomson Reuters

第3章 付 録

付録 1	2017年の金価格	21
付録 2	世界の金の鉱山生産量 ー トン	22
付録 3	世界の金加工量(中古金スクラップの使用を含む) ー トン	24
付録 4	宝飾品消費量(中古金スクラップを含む) ー トン	26

付録1 2017年の金価格

	LBMA価格 午前 米ドル/oz	LBMA価格 午後 米ドル/oz	最高値 午後 米ドル/oz	最安値 午後 米ドル/oz	ユーロ/kg	スイスフラン /kg	円/g	豪ドル/oz	ランド/kg	英ポンド /oz	ルピー/ 10g
年間平均	1,257.86	1,257.15			35,822	39,763	4,531.41	1,639.66	538,028	976.42	29,153
最高値	1,350.90	1,346.25			38,888	41,534	4,730.69	1,723.29	594,176	1,029.02	30,550
最安値	1,148.65	1,151.00			33,979	37,515	4,351.85	1,555.47	492,763	929.38	27,750
値幅/平均価格	16.1%	15.5%			13.7%	10.1%	8.4%	10.2%	18.8%	10.2%	9.6%
月間平均											
1月	1,192.65	1,192.62	1,216.80	1,151.00	36,087	38,603	4,400.37	1,596.57	519,583	966.79	28,903
2月	1,233.39	1,234.36	1,257.20	1,203.65	37,299	39,738	4,483.40	1,610.61	522,750	989.28	29,430
3月	1,231.06	1,231.09	1,257.55	1,198.80	37,028	39,660	4,467.65	1,615.25	511,872	997.33	29,031
4月	1,267.15	1,265.63	1,284.15	1,245.80	37,955	40,703	4,482.51	1,681.41	547,086	1,001.23	29,209
5月	1,245.25	1,245.00	1,266.20	1,220.40	36,201	39,461	4,494.33	1,675.71	530,758	962.99	28,600
6月	1,261.28	1,260.26	1,293.50	1,242.20	36,064	39,205	4,494.92	1,667.77	522,290	984.19	28,991
7月	1,235.10	1,236.22	1,267.55	1,211.05	34,513	38,153	4,465.40	1,584.58	521,992	951.78	28,381
8月	1,281.72	1,282.32	1,318.65	1,257.70	34,933	39,807	4,528.75	1,620.92	545,450	990.10	29,045
9月	1,317.05	1,314.98	1,346.25	1,282.55	35,489	40,682	4,683.19	1,650.61	556,377	987.83	29,993
10月	1,280.68	1,279.51	1,303.30	1,261.80	35,005	40,394	4,645.11	1,643.32	563,342	970.00	29,673
11月	1,283.19	1,282.28	1,294.90	1,267.20	35,107	40,861	4,650.61	1,682.44	579,376	970.16	29,624
12月	1,265.67	1,261.26	1,291.00	1,240.90	34,334	40,031	4,576.89	1,653.61	535,203	942.29	29,043
四半期平均											
第1四半期	1,219.19	1,219.49			36,804	39,338	4,450.50	1,607.67	517,801	984.79	29,110
第2四半期	1,257.49	1,256.59			36,669	39,735	4,491.05	1,674.53	532,522	981.92	28,924
第3四半期	1,278.01	1,277.91			34,978	39,551	4,558.64	1,618.74	541,339	976.78	29,113
第4四半期	1,277.03	1,275.42			34,846	40,461	4,628.08	1,660.30	561,283	962.01	29,452
出所: LBMA GFMS、Thomson Reuters											

付録2 世界の金の鉱山生産量 - トン

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
欧州										
ロシア	186.4	200.9	195.0	204.4	214.9	232.7	247.5	249.5	253.6	270.7
トルコ	11.4	14.5	16.6	24.1	29.6	33.5	31.0	27.5	26.0	26.1
フィンランド	1.7	3.8	5.6	6.4	8.9	8.6	7.6	8.2	8.8	9.0
スウェーデン	4.9	5.5	6.3	5.9	6.0	6.4	6.4	6.3	6.6	7.8
ブルガリア	2.8	3.3	2.5	3.4	4.3	4.6	5.4	5.4	4.7	5.5
ポーランド	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	1.1	2.6	2.7	3.5	3.6
その他	3.3	2.9	2.3	2.1	3.2	4.8	4.3	3.8	2.9	3.7
欧州合計	211.2	231.7	229.1	247.1	267.6	291.6	304.7	303.5	306.1	326.5
北米										
米国	233.6	221.4	229.7	233.5	232.4	229.6	208.7	216.2	222.0	230.0
カナダ	95.0	96.0	103.5	107.8	107.8	133.6	152.5	162.5	165.0	175.8
メキシコ	50.8	62.4	79.4	88.6	102.8	119.8	118.1	141.3	133.1	130.5
北米合計	379.4	379.9	412.5	429.9	443.1	483.0	479.3	519.9	520.1	536.3
南米										
ペルー	195.5	201.4	184.8	189.6	184.4	187.7	173.0	177.9	168.5	162.3
ブラジル	58.7	64.7	67.5	67.3	67.3	80.1	83.0	81.8	84.0	79.9
アルゼンチン	40.3	48.8	63.5	59.1	54.6	50.1	59.7	63.8	57.9	61.0
コロンビア	26.0	27.4	35.9	41.9	45.6	49.6	55.5	56.1	57.1	50.6
チリ	39.2	40.8	38.4	44.5	48.6	48.6	46.8	44.0	43.2	35.9
ドミニカ共和国	0.0	0.3	0.5	0.5	4.1	26.5	35.6	31.1	38.0	35.3
スリナム	17.9	20.4	20.5	20.2	20.1	18.6	18.2	17.0	20.5	33.4
ベネズエラ	24.3	24.8	24.9	25.5	21.8	22.9	23.2	24.2	24.8	25.4
ガイアナ	10.5	11.9	12.8	14.4	14.4	14.4	14.4	15.7	21.0	20.4
エクアドル	14.0	14.0	17.2	17.6	17.6	17.4	17.8	17.6	15.1	13.8
ニカラグア	2.9	2.6	4.9	6.3	6.9	8.7	8.8	8.0	8.7	7.7
ボリビア	8.4	7.2	6.4	6.5	6.4	6.1	6.3	6.1	6.3	6.4
フランス領ギアナ	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.8	2.7
ホンジュラス	1.9	2.6	2.4	1.9	1.9	2.0	2.8	2.6	2.4	2.6
グアテマラ	8.0	9.0	9.4	12.1	6.6	6.5	6.3	5.8	4.1	1.6
その他	3.5	3.9	4.4	4.8	5.2	4.3	3.2	3.1	2.3	2.4
南米合計	454.2	483.0	496.6	515.2	508.4	546.7	557.6	557.7	556.7	541.3
アジア										
中国	292.0	324.0	350.9	371.0	411.1	432.2	478.2	454.1	453.5	426.1
インドネシア	135.9	204.5	184.1	165.1	131.0	152.7	158.4	176.3	174.9	154.3
ウズベキスタン	72.2	70.5	71.0	71.4	73.3	77.4	81.0	83.2	82.9	84.9
カザフスタン	22.0	22.5	29.9	36.7	40.0	42.6	46.1	48.2	49.8	55.1
フィリピン	35.6	37.0	40.8	37.1	41.0	40.3	42.8	46.7	48.7	47.9
キルギスタン	18.4	17.0	18.5	19.7	11.3	20.2	19.2	18.4	19.7	20.4
モンゴル	16.5	14.1	13.9	12.4	12.8	17.8	30.5	31.3	20.5	14.7
サウジアラビア	4.0	5.1	4.5	4.6	4.7	4.5	5.2	5.6	7.4	10.8
北朝鮮	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3
ラオス	4.7	5.4	5.5	4.4	6.7	7.2	5.6	5.7	7.0	6.3
日本	6.9	7.7	8.5	8.7	7.2	6.4	7.1	7.7	6.5	6.1
タジキスタン	1.7	1.4	2.0	2.2	2.4	2.7	3.4	4.5	5.0	5.5
アルメニア	0.5	1.4	1.6	2.1	2.1	3.5	4.7	4.4	4.7	4.9
マレーシア	3.8	4.2	5.2	5.0	5.3	5.1	4.5	4.2	3.6	3.0
アゼルバイジャン	-	0.4	2.1	1.8	1.6	1.6	2.9	3.2	2.9	2.6
ベトナム	2.7	3.1	3.4	3.7	3.9	4.1	2.6	2.4	2.4	2.4
ジョージア	1.1	0.8	3.6	3.2	3.5	2.0	2.5	2.3	2.3	2.1
ミャンマー	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7
その他	7.7	10.4	9.9	8.3	9.8	9.8	9.7	8.5	9.9	5.6
アジア合計	633.7	737.5	763.5	765.4	775.7	837.9	912.4	914.8	909.6	860.9

付録2 世界の金の鉱山生産量 - トン

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
アフリカ										
南アフリカ	233.8	219.5	199.9	190.8	163.5	168.9	159.2	151.0	145.7	139.9
ガーナ	80.4	90.3	92.4	91.0	95.7	107.4	107.4	95.1	94.1	101.7
コンゴ民主共和国	7.2	10.0	17.0	22.0	26.1	25.3	40.0	45.7	60.4	60.1
マリ	47.0	49.1	43.9	43.5	50.3	48.2	47.4	49.0	49.8	52.2
タンザニア	35.6	40.9	44.6	49.6	49.1	46.6	45.8	46.8	49.7	49.1
ブルキナファソ	6.9	13.8	25.3	34.1	31.3	35.0	38.5	38.0	40.9	49.1
ジンバブエ	8.9	9.8	16.3	19.0	19.5	19.6	18.8	22.0	21.8	23.3
コートジボワール	5.3	8.6	7.3	13.4	14.0	13.6	18.0	22.2	22.6	22.7
ギニア	23.9	22.5	20.4	19.7	18.4	19.0	21.0	20.0	19.6	22.4
エジプト	0.0	0.0	4.7	6.3	8.2	11.1	11.8	13.7	17.1	16.9
スーダン	2.7	4.0	10.1	22.5	27.9	20.1	21.5	16.5	15.5	14.5
エチオピア	3.8	5.5	6.6	11.5	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0
モーリタニア	6.8	8.4	9.1	8.7	8.2	10.0	10.1	9.3	7.6	9.6
ナミビア	4.3	2.4	2.7	2.1	2.3	2.0	2.4	7.0	7.6	8.4
セネガル	0.1	5.2	4.5	4.3	6.8	6.5	6.7	5.8	6.8	7.4
ザンビア	1.9	3.1	3.4	3.5	4.2	5.2	4.8	4.2	4.6	4.4
その他	17.6	16.7	18.6	31.0	28.3	20.7	16.6	17.3	18.9	20.2
アフリカ合計	486.2	509.7	526.8	572.9	565.9	571.3	582.0	575.6	594.9	613.6
オセアニア、その他										
オーストラリア	215.2	223.5	256.7	258.7	250.4	267.1	274.0	279.2	290.2	295.0
パプアニューギニア	70.3	70.6	69.7	63.5	57.2	62.4	56.3	57.2	62.8	61.9
ニュージーランド	13.4	13.4	13.7	11.6	10.2	12.4	11.3	12.2	9.4	9.6
フィジー	1.1	1.1	2.1	1.6	1.6	1.4	1.3	1.4	1.5	1.3
ソロモン諸島	0.1	0.1	0.1	1.7	2.0	2.0	0.8	0.3	0.1	0.1
その他	1.7	0.9	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
オセアニア、その他合計	301.8	309.6	342.3	337.3	321.6	345.2	343.8	350.3	364.0	368.0
世界合計	2,466.5	2,651.3	2,770.9	2,867.7	2,882.2	3,075.7	3,179.7	3,221.9	3,251.4	3,246.5
出所: GFMS, Thomson Reuters										

付録3 世界の金加工量(中古金スクラップの使用を含む) - トン

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
欧州										
トルコ	236.7	111.3	109.0	136.3	114.2	178.1	155.8	111.9	100.5	121.7
イタリア	186.7	134.6	126.3	103.3	95.9	92.3	96.0	94.3	88.3	88.7
ロシア	76.0	57.5	61.0	66.2	72.2	74.3	70.1	51.8	46.9	46.4
スイス	58.2	37.5	40.8	47.9	47.8	46.0	44.3	40.9	34.4	33.0
ドイツ	49.1	38.1	40.8	38.8	36.4	36.8	36.3	32.3	31.6	31.5
英国	15.6	15.2	13.9	15.5	15.2	13.9	15.4	20.2	19.4	16.5
オーストリア	26.3	34.6	19.1	22.3	13.7	21.5	16.2	24.7	18.5	14.0
フランス	13.0	11.0	11.1	10.1	8.4	7.6	7.8	7.4	6.9	7.9
スペイン	19.3	13.6	8.4	7.1	6.3	5.8	5.5	5.6	5.2	5.2
ギリシャ	7.4	6.2	6.2	4.5	4.0	3.5	3.9	4.0	3.8	3.9
ポーランド	5.8	4.4	2.9	2.7	2.4	2.2	2.5	3.0	2.9	2.8
オランダ	3.3	2.9	3.0	2.8	2.6	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2
ポルトガル	3.6	2.9	2.3	1.7	1.4	1.4	1.7	1.5	1.4	1.5
チェコ共和国	1.8	1.6	1.5	1.3	1.2	1.1	1.3	1.0	0.9	0.9
ベルギー	1.1	1.0	0.9	0.9	0.9	0.8	0.9	0.9	0.8	0.8
ルクセンブルク	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
スロバキア	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1
その他	11.0	8.4	8.0	7.4	6.9	7.1	7.5	7.3	7.0	6.8
欧州合計	717.1	483.1	457.4	470.8	431.4	496.4	467.7	409.2	371.0	383.9
北米										
米国	177.1	173.1	179.1	166.7	146.9	160.0	150.4	164.1	168.1	145.0
カナダ	40.1	48.4	43.7	44.9	32.4	44.5	31.7	40.1	40.7	28.6
メキシコ	23.0	18.9	18.2	13.2	13.2	7.7	8.5	9.1	8.9	9.4
北米合計	240.2	240.4	241.0	224.9	192.6	212.2	190.6	213.4	217.7	183.1
南米										
ブラジル	25.0	24.9	29.5	27.7	29.5	32.9	34.0	24.2	22.9	23.3
チリ	3.2	2.8	2.9	2.2	2.2	2.4	2.4	2.3	2.3	2.4
コスタリカ	1.3	1.1	1.2	1.3	1.3	1.0	1.2	1.7	1.7	1.7
その他	16.0	11.5	10.5	8.6	8.3	7.8	8.6	9.2	8.7	8.6
南米合計	45.5	40.3	44.0	39.7	41.3	44.2	46.3	37.4	35.6	36.0
アジア										
インド	708.1	571.0	783.4	761.0	736.0	715.8	770.6	811.7	505.8	782.8
中国	382.7	431.3	522.5	650.7	697.7	1,288.6	1,013.4	920.0	787.6	771.2
日本	163.7	140.5	157.5	147.2	126.1	124.2	118.6	102.2	99.3	99.6
韓国	107.8	90.6	92.6	88.5	86.1	83.9	81.5	79.2	77.8	79.8
アラブ首長国連邦	46.3	35.9	32.9	31.9	29.7	37.8	41.6	45.1	45.0	55.7
インドネシア	66.2	50.8	44.7	48.1	52.8	60.9	53.3	49.7	44.9	45.0
イラン	54.1	60.2	72.4	84.1	86.7	93.3	61.6	56.1	35.1	42.1
マレーシア	56.3	45.0	44.8	41.1	38.7	48.6	44.7	39.4	33.8	30.2
シンガポール	30.6	26.3	28.3	26.6	24.8	28.3	29.0	29.1	27.0	27.7
サウジアラビア	85.0	53.5	46.6	36.8	32.5	41.4	37.3	40.9	31.6	26.5
タイ	44.0	30.5	27.4	24.9	21.8	29.8	27.1	27.4	23.9	24.3
台湾	27.5	23.1	26.1	24.0	22.5	22.2	21.3	20.2	21.1	22.8
パキスタン	43.8	29.7	26.1	22.1	20.6	24.6	20.9	22.6	16.1	19.4
ベトナム	21.5	16.0	14.7	13.6	11.9	12.8	13.9	15.5	15.7	16.8
スリランカ	4.5	3.8	3.7	3.2	3.1	3.5	3.5	3.2	7.1	11.2
クウェート	13.5	11.4	10.6	10.2	9.6	10.3	11.0	10.8	9.8	10.6
ヨルダン	8.7	9.6	9.9	9.2	8.6	9.5	11.4	12.5	10.5	10.0
ウズベキスタン	10.9	8.8	10.4	11.4	10.9	11.1	11.2	9.7	8.7	8.9
レバノン	8.8	6.5	6.0	6.6	7.8	10.7	10.3	13.8	9.0	8.6
カザフスタン	10.9	8.8	10.4	11.4	10.9	11.1	10.5	8.4	7.4	6.0
バーレーン	8.7	6.5	5.7	5.1	4.6	5.8	5.6	5.8	5.1	5.5

付録3 世界の金加工量(中古金スクラップの使用を含む) - トン

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
イスラエル	8.7	7.2	6.3	5.5	5.1	5.9	6.9	6.0	5.4	5.0
イラク	4.6	3.8	3.7	3.8	3.9	5.0	4.9	5.1	4.1	3.8
オマーン	6.0	4.5	4.1	3.5	3.2	3.8	3.6	3.7	3.3	3.0
ミャンマー	3.5	3.0	2.6	2.3	2.3	2.7	2.4	2.6	2.7	2.8
ネパール	4.5	3.5	3.5	3.3	3.5	3.9	3.0	2.9	2.1	2.4
フィリピン	3.3	3.1	2.9	2.3	2.1	2.4	2.4	2.5	2.3	2.3
バングラデシュ	5.8	4.6	4.2	3.8	4.4	4.5	6.0	4.5	3.7	2.1
香港	15.6	14.7	15.8	16.5	6.8	4.2	3.6	3.0	2.1	1.9
カタール	2.7	2.1	1.9	1.6	1.7	2.1	1.9	2.1	1.9	1.7
その他	24.5	17.8	16.6	12.5	9.4	8.6	6.7	5.9	5.1	4.9
アジア合計	1,982.6	1,723.6	2,038.0	2,113.0	2,085.6	2,717.1	2,439.5	2,361.4	1,854.6	2,134.2
アフリカ										
南アフリカ	16.4	28.3	24.6	27.4	27.2	30.8	24.9	30.7	37.7	51.7
エジプト	64.5	44.9	43.3	30.2	38.7	41.8	41.5	38.6	27.5	23.6
モロッコ	9.5	7.6	7.0	6.8	6.6	6.5	6.8	6.8	6.2	6.4
リビア	4.8	3.9	3.5	2.4	2.3	2.5	2.7	2.3	2.0	2.5
その他	11.5	9.9	9.4	9.2	8.8	9.2	9.5	9.3	8.6	8.7
アフリカ合計	106.6	94.7	87.7	76.0	83.5	90.8	85.3	87.7	82.0	92.8
オセアニア										
オーストラリア	14.0	14.6	12.0	13.9	13.3	19.6	14.8	13.3	13.9	11.2
オセアニア合計	14.0	14.6	12.0	13.9	13.3	19.6	14.8	13.3	13.9	11.2
世界合計	3,104.1	2,594.9	2,878.4	2,936.7	2,846.30	3,578.9	3,244.3	3,122.4	2,574.9	2,841.3
内訳:										
東アジア*	925.9	877.5	982.4	1,088.0	1,095.7	1,711.0	1,413.5	1,292.9	1,140.1	1,126.2
インド亜大陸*	766.7	612.5	820.9	793.4	767.6	752.3	803.9	844.9	534.7	817.9
中東*	563.8	369.2	363.8	373.3	351.6	449.5	395.8	354.1	290.2	319.0
CIS*	103.4	78.1	84.2	90.9	95.9	98.5	93.6	71.7	64.5	62.8

出所:GFMS、Thomson Reuters *地域の主要金地金市場

付録4 宝飾品消費量(中古金スクラップを含む) – トン

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
インド	599.8	471.4	657.6	618.3	552.0	612.7	662.1	674.5	463.1	623.7
中国	340.6	376.3	453.8	550.9	608.7	1,025.4	823.7	743.1	621.8	594.9
米国	188.1	150.3	121.4	111.5	104.2	122.0	128.2	135.3	136.0	144.7
トルコ	153.2	75.2	67.4	70.1	61.5	73.3	68.2	49.3	41.2	39.4
アラブ首長国連邦	100.0	74.6	71.6	62.1	55.5	68.6	59.9	55.3	46.2	52.1
イラン	45.8	39.9	42.3	41.3	43.4	47.9	35.7	35.4	39.7	44.9
韓国	53.2	47.6	43.4	43.1	44.3	42.1	42.2	41.8	41.3	40.4
香港	17.0	16.4	20.6	28.4	26.3	73.7	56.9	47.3	37.2	40.1
インドネシア	59.9	45.0	37.8	42.2	46.7	53.7	47.7	40.1	34.2	36.2
ロシア連邦	92.4	56.7	60.1	64.7	69.6	73.3	70.6	34.1	30.2	34.0
サウジアラビア	110.9	81.8	71.6	55.7	47.1	59.0	52.8	57.5	38.1	29.0
エジプト	74.3	56.7	53.4	33.8	39.7	45.1	46.9	40.9	27.9	23.2
クウェート	23.6	19.1	18.1	16.9	16.1	21.2	24.9	23.1	20.1	22.6
英国	37.2	31.8	27.3	22.6	21.4	23.4	27.6	27.4	25.2	21.6
バングラデシュ	5.8	4.6	4.2	12.3	15.2	15.6	16.2	16.5	18.1	19.8
イスラエル	28.1	26.6	25.7	21.9	21.5	25.3	23.3	24.8	20.2	19.8
日本	31.2	22.3	21.3	16.6	16.7	21.4	20.0	19.7	19.8	19.1
イタリア	49.1	41.4	34.9	27.6	22.3	20.2	18.8	18.1	17.6	17.2
ベトナム	21.5	16.4	15.6	14.2	12.6	13.5	14.2	15.8	16.3	17.1
カナダ	22.3	18.6	17.5	16.3	15.7	16.3	16.7	16.9	16.2	15.4

出所:GFMS、Thomson Reuters

* 小売店で販売されているすべての新規宝飾品(中古宝飾品と新規宝飾品の交換を除く)の純金含有量。宝飾品加工量に輸入量を加えて輸出量を差し引き、小売店の在庫動向に関する調整を加えて算出。



112026617

999.9
1,000g



valcambi
suisse

1kg
gold

999.9

